

第9回 天塩川下流 減災対策協議会
第9回 天塩川下流 流域治水協議会

～議事概要～

天塩川下流における堤防の決壊や越水等に伴う氾濫に備え、国、北海道、自治体等が連携して減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進し社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築するため、第9回天塩川下流減災対策協議会を開催しました。あわせて、気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、河川・下水道管理者等が行う治水対策に加え、あらゆる関係者が協働して、流域全体で水害を軽減させるハード・ソフト一体の治水対策、「流域治水」の推進を図り、第9回天塩川下流流域治水協議会を開催しました。今年度は効率的な協議会運営を図り、減災対策協議会と流域治水協議会を同時に開催し、取組状況のフォローアップ等を実施するとともに、意見交換を行いました。

日時：令和6年2月26日 13:30～15:30

開催場所：天塩町福祉会館1階会議室（Web会議併用）

出席者：留萌開発建設部、留萌振興局、宗谷総合振興局、天塩町、豊富町、幌延町、北留萌消防組合、稚内地区消防事務組合、留萌北部森林管理署、宗谷森林管理署、旭川地方気象台、稚内地方気象台、留萌駐屯地、天塩警察署、北海道警察旭川方面本部、北海道旅客鉄道株式会社、

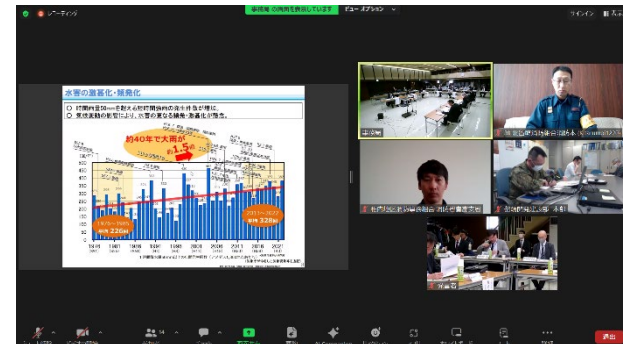
報告があった取組

- ・河道掘削、樹木伐採等の河道整備
- ・排水施設の整備、森林整備
- ・避難行動要支援者の名簿を作成し、関係機関に情報共有
- ・避難場所等の整備に向けた協議を実施
- ・防災訓練、防災教育の実施
- ・緊急割込み放送の訓練を実施
- ・洪水ハザードマップ、避難情報等の周知
- ・水防資機材の充実
- ・ホームページ等による水防意識の啓発を実施
- ・河川環境学習

など



会議の開催状況



Web会議ツールによる接続状況

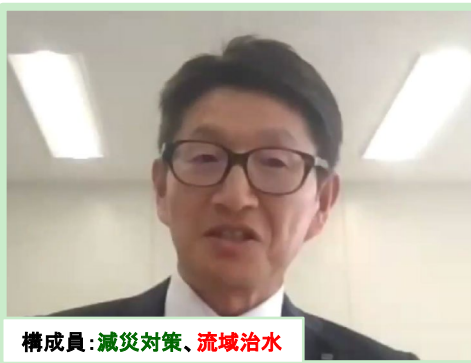
各構成員のコメント



構成員：減災対策、流域治水

留萌開発建設部長

- 天塩川は河川延長が長く、全国でも十本の指に入る大河川です。下流側で雨が降らなくても、上流の上川、名寄や士別地域で大雨が降れば1日～2日遅れて、下流の水位が上昇する特性があります。
- 近年、短時間の降雨強度が大きくなる傾向があります。留萌管内でも昭和63年の留萌川の大雨をはじめ、遠別、天塩でも近年大雨が降っているので、改めて両協議会の活動を通じて、防災の意識の向上と一段進んだ治水対策の実施に向け取り組んでいきたいと思ひます。



構成員：減災対策、流域治水

留萌振興局長
代理出席 副局長

- 天塩川は、留萌川と異なり河川の延長も長く、取組を実施するには難しさがあると思ひています。
- 流域治水では俯瞰した取組が大事で、避難を考えれば、個々人が取組を自分事化する、組織もそれぞれ取組を自分事化して取り組んでいくことが非常に大切だと思ひます。



構成員：減災対策、流域治水

宗谷総合振興局長

- 水災害の行動は、いかに早く対応するかが大事と思ひています。逃げることのスピード化、逃げてという指示発令のスピード化の2つの要素があると思ひます。逃げることのスピード化は、防災教育などの取組が逃げる側（住民）の意識のスピード化につながると思ひています。避難指示のスピード化は、関係機関の皆様と常日頃からお付き合いをし、連携を深め、顔の見える関係を築くことが大事と思ひています。
- 今後とも、協議会のメンバーと協力して取組を進めていきたいと思ひます。

各構成員のコメント



構成員: 減災対策、流域治水

天塩町長

- 昨年3月からJアラートを含めた防災情報の伝達を速やかに行えるよう、スマートフォンや携帯電話へ配信できるシステムを整備しており、その普及率の向上に努めています。
- 防災計画に基づく各部署の災害時におけるタイムラインを作成したので、職員訓練に活用し、熟度を高めるとともに、各町内会や団体、職場単位の防災教育を進めて、防災意識の向上を図っていきたいと思います。
- 雄信内地区は、大部分が浸水想定区域となっているので、災害機能を備えた複合施設の整備の検討を進めています。
- 消防や警察をはじめとした町内の関係機関はもちろん、北海道や開発局、気象台、自衛隊など、様々な方々との連携を強化していきたいと思います。



構成員: 減災対策、流域治水

豊富町長

- 現在実施している取組をベースとして、さらに幅広い取組の検討を取り進めていきたいと思っています。地球温暖化による気候変動は、台風や線状降水帯、またゲリラ豪雨など、想定を超える大きな被害をもたらしていますし、サロベツ活断層の存在もあり、予断を許さない現状です。
- 新年度も引き続き、実災害を想定した防災訓練を積み重ね、過去の水災害の教訓や能登半島地震の教訓を参考に備えていかなければならないと強く感じています。
- 被害の軽減を目指して、流域内の全ての行政機関、企業、流域住民が一体となり、今まで以上に連携を図ることが必要だと思っています。引き続き関係機関の皆様の御協力を得ながら、今できる減災対策に取り組んでいきたいと思います。



構成員: 減災対策、流域治水

幌延町長

- 幌延町はここ数年、災害が起こらず、平和ぼけをしている状態の中で、なかなか実効性を伴う対策ができていないという反省点があります。
- 今年から、防災マネージャーを招くことができました。防災マネージャー着任を機に、我々も住民の防災意識の向上させるとともに、取組を進めていきたいと考えています。
- 幌延町は低地に位置しており、天塩川の氾濫リスクが大きい地域です。次年度、作成予定である自治体タイムラインの活用方法と、空振りを恐れず勇気を持って決断できるよう今後ともしっかりと考えていきたいと思います。

各構成員のコメント



構成員: 減災対策

北留萌消防組合 消防長

- 本日は減災対策、流域治水に関する取組紹介があり、大変参考になりました。関係機関の皆様が様々な取組をされていることを改めて理解しました。
- 避難に関して、各町で防災訓練をされていますが、住民の避難行動としては、あまりスピード感はないと感じています。さらに危機感を持って住民の避難行動の促進に取り組んでいく必要があると考えています。関係機関、各町とも協力して、今後とも防災訓練に関わっていきたいと思っていますのでよろしくをお願いします。



構成員: 減災対策

稚内地区消防事務組合
消防署豊富支署長

- 自然災害のみならず、河川の救助事案など、当支署において関わりが大きい「流水救助」という部分で職員が知識習得、研修会への参加、個人装備の準備等整備を進めています。
- 幸い河川の事故は少ない状況ですが、自然災害や救助事案等を含めて、各関係機関と連携して、今後も迅速に消防としてできる限り対応していきたいと思えます。今後ともよろしくをお願いします。



構成員: 流域治水

留萌北部森林管理署長

- 減災対策や流域治水の取組を進めるにあたって、森林管理署ができることは上流部にある森林の整備に尽きると思っています。今年も留萌北部森林管理署管内、天塩町から羽幌町まで3町1村を管理しており、天塩川流域に関する森林整備で、間伐や下刈りなどの造林事業を実施しています。
- 今後におきましても、開発建設部、振興局あるいは自治体の方々からの様々な御意見を参考に森林整備を進めていきたいと考えています。

各構成員のコメント



構成員: 減災対策、流域治水

旭川地方気象台長

- 気象台としては、風水害時に早めの情報を取得し、降雨量や風速の予測情報を早期に共有したいと考えています。
- 予測する先行時間が長くなるほど、予測誤差が大きくなりますが、以前より精度は上がっています。今後も精度向上に努め、関係機関に共有し、連携・協力して防災対策に努めていきたいと思っていますので、今後とも引き続きよろしくお願いします。



構成員: 減災対策、流域治水

稚内地方気象台長

- 天気予報は、コンピューターシミュレーションに基づいて数時間先、数日先、1~2週間先ぐらいの、天気予報あるいは降水量の予報を出しています。
- 気象庁本庁で、現在の性能の約2倍のスーパーコンピューターに更新しました。今後はこれを活用し、より多くの計算を行うことができるようになります。
- コンピューターを更新しましたので、今後は新しいコンピューターを使うことにより、さらに優れた計算手法を導入するなどして、より精度の高い予測情報を出せるよう気象庁として取り組んで参ります。



構成員: 減災対策

 留萌駐屯地 連隊長
代理出席 副連隊長

- 前々職が熊本で、その際に球磨川の河川氾濫の災害派遣に従事しました。この際、上流の人吉、下流域の熊本市といった広範囲の対応の難しさを身を持って体感しました。隊員一人一人が防災に関する知識を習得していることが必要だと思っています。
- 豊富、幌延の担当である名寄駐屯地に加え、上位部隊である第2師団司令部旭川駐屯地の防災担当者とも情報共有を図り、連携していく必要性を感じています。

各構成員のコメント



構成員：減災対策

北海道警察 旭川方面本部警備課長
代理出席 警備課長補佐

- 減災対策に関して、警察主体でできること、関係機関と協力・連携してできることなど、考えて実施していきたいと思っています。方面本部として警察署のバックアップ、さらに必要であれば札幌の警察本部とも連携してやっていきたいと思っています。
- 担当者と意見交換を行う機会はなかなかないので、これからも積極的にこのような場に参加させていただいて、今後の対応に活かしたいと思っています。



構成員：減災対策

北海道旅客鉄道株式会社 旭川支社長

- ハード対策では、過去の災害箇所、災害発生リスクの高い箇所で、計画的に防災設備に対する修繕、新設の対応を進めています。
- ソフト対策では、局地的な豪雨に対応するため、雨災害の予兆をいち早く把握するため、雨量計の増設置、解析雨量を用いた降雨予測を行い、列車の運行可否の早期判断に努めています。
- 今後も、状況によって列車の運行が止まることもあるかもしれませんが、安全第一で鉄道運行を進めていることを御理解いただきまして、今後とも皆様方と情報共有を進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。